

# 令和 5 年度 学校自己評価システムシート (県立けやき特別支援学校伊奈分校)

|        |  |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 安定した人間関係を形成し、「自らの病状や実態を理解し、自らの健康管理ができる力」と「基礎学力」を身につかせ、子どもたちの夢や希望の実現に向けて全力で取り組む、保護者・病院から信頼される学校 |
|--------|--|

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 病弱教育における教職員の専門性の向上と児童生徒一人一人に応じた教育活動の充実<br>2 病弱教育のセンター的機能の充実及び啓発と保護者や地域、関係機関に信頼される学校づくりの推進<br>3 児童生徒が生き生きと学べるよう、安全・安心な学習環境の整備 |
|------|--|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|   |             |
|---|-------------|
| A | ほぼ達成(8割以上)  |
| B | 概ね達成(6割以上)  |
| C | 変化の兆し(4割以上) |
| D | 不十分(4割未満)   |

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

|     |          |    |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者    | 3名 |
|     | 生徒       | 1名 |
|     | 事務局(教職員) | 5名 |

| 学 校 自 己 評 価 |  | 年 度 評 価 ( 2 月 9 日 現 在 )   |   |   |                   |  |   |
|-------------|--|---|---|---|-------------------|--|---|
| 年 度         | 学 目 標  | 具体的方策   | 方策の評価指標   |   |                   |  |   |
| 番号          | 現状と課題  | 評価項目  | 評価項目の達成状況   |   |                   |  |   |
|             |  |   | 達成度   |   |                   |  |   |
|             |  |   | 次年度への課題と改善策   |   |                   |  |   |
| 1           | <p>【現状】<br/>ユニバーサルデザインにもとづく授業づくりについて研究を重ねた。ICT機器を活用した主体的、対話的で深い学びにつながっている。<br/>自分メーターを活用することで、自己理解を深め、安定した学習につながっている。<br/>各種行事については、児童生徒一人一人が自尊心を高めたが取り組むことができています。</p> <p>【課題】<br/>ICT機器の活用については、教科に応じた活用状況に差がある。教科の特性を踏まえた活用について研修を進めていく必要がある。<br/>自分メーターについては、質問紙法で行っている。日本工業大学の協力を得ながらアプリケーション開発を行っている。アプリケーションの実装について検証する必要がある。</p> | <p>教員のICT機器の活用についてのスキルを高め、教科の実践に応じた授業を実践する。</p> <p>各教科の特性を踏まえたタブレット端末を活用し、児童生徒のICT活用スキルを高めるとともに、自分メーターをタブレット端末に実装しながら、各種行事や諸活動において活躍できる指導を行う。</p> | <p>・教科の特性に応じたICT機器ハード面やソフトウェアの活用に向けて、学部内で情報交換の機会を設ける。(各学期1回)</p> <p>・各種ICT機器を管理するとともに、ICT機器を活用しやすいように教職員の研修の機会を設ける。(年間2回)</p> <p>・自分メーターをICT機器に実装し、児童生徒一人一人の実態把握を行い、有効な活用方法や支援方法を検証する。(通年)</p> <p>・児童生徒一人一人がICT機器の活用をとおして、活用スキルを高めながら各種行事や諸活動に参加し、自分の考えをまとめたり、発表できたりできるように指導してする。(通年)</p> | <p>・学部内で情報交換の機会を設けることができたか。</p> <p>・教務・情報部を中心に、教職員向けの研修会が実施できたか。</p> <p>・自分メーターをICT機器に実装できたか、また、活用方法や支援方法を検証できたか。</p> <p>・児童生徒がICT機器の活用をとおして、各種行事や諸活動に参加できたか。</p> | <p>A</p> <p>A</p> | <p>・授業における効果的な活用方法について教員が研修を重ねる必要がある。また、児童生徒が適切にICT機器や情報を活用できるように、情報リテラシーを含めた危機管理について、教職員研修の機会を作る。</p> <p>・試用版自分メーターの一部の児童生徒のタブレットに実装し使用した。書きや読みが苦手な児童生徒にとって有効であると検証できた。</p> <p>・絵画アプリや動画編集アプリの活用により、児童生徒が主体的にICT機器を活用する能力や技能を高めることができた。行事や諸活動をとおして達成感を得ることができた。</p>   | <p>・授業における効果的な活用方法について教員が研修を重ねる必要がある。また、児童生徒が適切にICT機器や情報を活用できるように、情報リテラシーを含めた危機管理について、教職員研修の機会を作る。</p> <p>・試用版について日本工業大学と協働して、より使いやすいものへのバージョンアップする。</p> <p>・行事以外の授業時における児童生徒のICT活用能力を向上させるとともに、インターネットリテラシーを向上させるための学習の機会を作っていく。</p> |
| 2           | <p>【現状】<br/>前籍校訪問、復学支援会議、準備登校前籍校との連携を図りながら丁寧に進めることができています。<br/>教育相談や学校コンサルテーションの実施など、地域支援の実施を行っている。<br/>公開講座を年間2回実施した。参加者も多く、参加者からの評価も高かった。<br/>【課題】<br/>復学後の様子について、アンケートを実施しているが、郵便による対応ではなく、電子化を進めていく必要がある。<br/>病弱教育の理解は徐々に進んでいる。さらに理解を深めるため、地域のニーズを踏まえた、丁寧な準備と対応を行う必要がある。</p>   | <p>スムーズな復学に向けて、前籍校との丁寧な連携をするとともに、復学後の児童生徒の状況を把握するための有効な手立ての改善に取り組んでいる。</p> <p>地域支援や公開講座</p>   | <p>・復学を前提に前籍校との連携を行い、児童生徒の実態の把握と情報共有を行うとともに、児童生徒の復学後の様子の把握とフォローアップを速やかに行えるようにするためにアンケートを電子化すること。(年度末)</p> <p>・県内全市町村に地域支援のパンフレットを配布するとともに、地域のニーズを踏まえた公開講座を年間2回開催する。(年度末)</p>  | <p>・児童生徒の実態把握と情報の共有、アンケートの電子化ができたか。</p> <p>・県内全市町村に地域支援のパンフレットを配布することができたか。公開講座を2回実施できたか。</p>   | <p>A</p> <p>A</p> | <p>・来年度も前籍校と丁寧な連携を継続して行う。復学後のアンケートについては、今年度の実績をもとに、必要に応じて使いやすさにする。</p> <p>・来年度は地域支援のパンフレットをリニューアルし、県内全域に配布する。公開講座も、夏と冬の2回実施する。</p>   |   |
| 3           | <p>【現状】<br/>新型コロナウイルス感染症について、対策を講じてながら各種行事を実施した。病弱のスタッフも一堂に会して取り組むことができた。<br/>近年の自然災害の発生の様子から防災学習に取り組んだ。多様な考えについて理解を深めるとともに、災害時の対応について理解を深めることができた。<br/>【課題】<br/>新型コロナウイルス感染症対策の緩和策について、病院と連携しながら必要な対策を講じていく必要がある。<br/>防災学習については、学習の機会が少ないため、多くの児童生徒が参加することについて課題がある。</p>  | <p>新型コロナウイルス感染症対策の緩和と踏み入れ、より丁寧に病院と連携しながら各種行事に取り組む。</p> <p>防災学習について、児童生徒の参加率を上げ、児童生徒が防災についての理解をより深められる指導に取り組む。</p>                                 | <p>・各種行事の実施にあたり、コロナ禍の慣習にとらわれず、可能な範囲で児童生徒の思いや願いに沿った計画を立てられるように、典教育委員会の指針や病院の意向をその都度確認しながら、必要な感染対策を精査して実施する。(通年)</p> <p>・児童生徒の参加率を上げるため、在籍児童生徒の多い時期を教務・情報部と連携して把握するとともに、実施回数を3回に設定する。(年間3回)</p> <p>・多くの児童生徒が意欲的に参加できるように、事前に日程や学習内容について周知を行うとともに、各担当から児童生徒への参加の促しを積極的に行う。(基準値20名)</p>       | <p>・各種行事において病院と連携して、適切な感染対策を講じた計画を立て、実施できたか。</p> <p>・年3回の防災学習において、各学期で在籍児童生徒数が多い時期を見定めて実施することができたか。</p> <p>・参加の促し方を工夫したことで、昨年度の参加人数を上回るすることができたか。</p>             | <p>A</p> <p>A</p> | <p>・引き続き、各種教育活動において病院とその都度連携をし、必要な感染対策を講じていく。</p> <p>・引き続き、各種教育活動において病弱のスタッフやボランティアの方を招いての活動において、県の指針、病院の状況や意向を確認しながら、病弱の確保や換気方法の工夫等必要な感染対策を講じることができた。児童生徒がやりがいや達成感を得られるような計画を立て、実施することができた。</p> <p>・教務・情報部と相談し、今年度の各学期の在籍児童生徒数を事前に想定し、1学期初旬、2学期下旬、3学期中旬に防災講話を実施できた。</p> <p>・積極的に参加を促し、各回10～15名が参加することができ、去年度と比較して1.5倍ほど参加率を上げることができた。</p> |   |

| 学 校 関 係 者 評 価 |  |
|---------------|--|
| 実 施 日         | 学 校 関 係 者 評 価  |
| 令和6年2月13日     | <p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>ICT機器の活用について、児童生徒の活用だけではなく、教職員が活用について研修を重ねることは教職員の課題意識も高いのだと思う。引き続き、研修を深め、よりよい教育活動を展開していただきたい。</p> <p>プログラミング教育、様々なソフトやアプリの活用など、ICT機器の活用の幅が広がっている。引き続き、見るだけのツールにとどまらず、様々な活用をしていただきたい。</p> <p>自分メーターのアプリケーション開発により、紙面による取組と合わせ、実態に応じた活用が進んでいる。ICT機器を活用した、自己理解を深める取組は素晴らしい。一人一人に応じた個別最適の学びにつなげていただきたい。</p> <p>児童生徒の関わりだけでなく、保護者連携や地域連携においてもICT機器を活用した対応を行っていることが分かった。保護者、地域、教職員の負担軽減を考えながら、より使いやすなものになるとよい。</p> <p>情報リテラシー教育について、出前講座を実施していただいた。児童生徒の特性を踏まえたメディアとの付き合い方について、病棟プログラムとしても検討している。学校と病院がさらに連携を深めながら、退院・復学に取り組んでいただきたい。</p> <p>アフターコロナとはいえ、完全に収束しているわけではない。関係機関との連携を引き続き丁寧に行っていただき、安全に教育活動を行っていただきたい。</p> <p>教職員の皆様の健康についても心配している。御自身の健康についても気をつけていただきたい。</p> |